



8月を振り返って

猛暑の8月が終わりました。採用選考を受けた4年生・卒業生の皆さん、お疲れさまでした。人事は尽くしたので、結果の発表を待ちましょう。別途お願いしているところですが、①選考受験者アンケート、②復元論文の作成、③面接復元の3点の作成をお願いします。特に②・③については、記憶が鮮明なうちに、しっかりと復元して提出してください（書式は自由）これらの資料は次年度以降採用選考を受験する後輩たちにとって貴重な資料となりますし、教職課程センターとしても、自治体ごとの傾向を知るための重要な資料となります。選考が終わって羽を伸ばしたい気持ちはわかりますが、その前に上記3点の作成をお願いします。



4年生は実習日誌も完成していることと思います。こちらも期日までに提出してチェックを受けてください。最終的に実習日誌は手元に戻ってきます。この日誌は皆さんにとっての貴重な財産です。長い教員生活の途中には様々なピンチの場面に出くわすこともあります。そんなときはぜひ実習日誌を開いて見てください。そこには皆さんの教員としての原点の想いが記されているはずですよ。私も現職時代、困難にぶち当たった時に何回も実習日誌を見直しました。そして「あの時こんなに頑張れたのだから、今ならもっとできるはず！」と自分を奮い立たせることができました。実習日誌は自分自身の原点を確認できる貴重なアイテムです。大切に保管しておきましょう。

3年生はいよいよ来年の選考受験に向けた準備を開始する時期です。今月からは教育実習事前指導も始まります。しっかりと受け止めてこれからの取り組みの流れを確認しておきましょう。また論文作成練習は早く始めれば始めるほど有利です。（作文力が身につきます）合格論文を仕上げるには、何度も書いて弱点をふさいでいくしかありません。書き方指導も致しますので、ぜひ教職課程センターまでお越しください。なお、まだ教職課程センターへの登録を済ませていない人がいましたら、至急登録をお願いします。登録者には様々な情報提供と、論文作成や面接対応など必要なサポートを提供いたしますので、各自のペースで教職課程センターを活用しながら準備を進めていきましょう。

9月の予定

1年生：中旬【教職課程登録ガイダンス】下旬【教職課程登録届提出・履修カルテ受領】

2年生：【予定は特にありません】 3年生：【教育実習事前指導】【教職課程センターへ登録】

4年生：【教育実習日誌提出】【履修カルテ提出】【教育実習事後指導】【教職実践演習】

全ての事務手続きについては、学務課から具体的なアナウンスがあります。締め切りが設定されているので、必ず期日を守って所定の手続きを進めてください。不明な点は早めに学務課で相談してください。

➤ **採用選考に向けて、いつごろからどんな準備をしてきましたか？**

- ・一次選考の準備は3年の11月ごろから始めました。基本的に過去問に繰り返し取り組みました。
- ・論文についても3年生の11月ごろから書き始めた。論文には説得力を生み出す「型」があるので、早めに教職課程センターに相談し、「型」を覚えることをお勧めします。
- ・教職教養、専門教養：受験年の4月から始めました。最初は過去問で問題把握しました。次に、大学受験用のテキストを用いて幅広く勉強をしました。最後に過去問でひたすらアウトプットしました。復習を大切にしました。
- ・小論文：秋頃から始めました。当初は1ヶ月に1回の添削ペースでしたが、4月からは1週間に1回の添削ペースで提出しました。
- ・面接：受験年の2年前の夏休みから始めました。夏休みと春休みに教職課程センター主催の練習期間があるのでそれを徹底的に活用していました。
- ・10月から専門教養（数学）をずっと勉強していた。専門教養（数学）は、青チャートのできない問題を繰り返し解きました。
- ・3年の夏休み前くらいに専門教養も一般教養・教職教養も過去問を解き、どのような難易度なのかを実感しました。教職教養は3年生の夏休みから勉強を始めました。専門教養・一般教養は9月から本格的に過去問を解きました。小論文は10月後半から始めました。面接は2、3月に教職課程センターで行われる練習に合わせて配布された資料（面接の質問）をもとに対策をしました。過去問もそれぞれ3回以上は解きました。数学は高校で使っていた問題集や他県の過去問、教職教養は全国の問題集を解きました。一般教養は過去問の知識は覚えるようにしました。（同じ問題が出されることが多いので）

➤ **これから採用選考の準備を始める下級生に対して、これはやっておいたほうが良い!という取り組みを教えてください。**

- ・過去問は見ておくべきだと思います。といっても、教職教養などは結局全て覚えておく必要があると思うので、何かテキスト1冊買って、2周してみるといいかもしれません。
- ・筆記試験の対策としては過去問を何度も解くこと、小論文は教職課程センターの指導を忠実に実践すること、面接対策は教職課程センターの指導の下、自治体の分析をして話す練習をすることが重要です。
- ・学校での学習ボランティアやSSSなどの取り組みは出来ればやっておいた方がいいと思います。その中で様々な学びがあり、改善したいと思うことや現場での教育課題などを見つけ、自分の目指す授業や教師像などをぼんやりとでも自分の中に確立していくことは、採用試験にも生きると思いますし、実際に教員になった時にも必ず役に立つと思います。私はたったの4ヶ月間の学習ボランティアでしたが、たくさんの学びがあったのでぜひ挑戦してみてください。

➤ **採用選考の受験を通して、あなたの教職に対する意識はどのように変わりましたか。**

- ・教員になりたいという意識がより一層高まりました。時代を担う子供を教育したいとますます思うようになりました。教壇に立つのが楽しみでしかありません。
- ・今まで、「教員になりたい」と漠然としていましたが、面接対策で実際にどうなりたいか、どう行動するかを具体的に考えるのでより一層教員という職業に魅力を感じました。
- ・採用試験に向けて特に論文練習や面接練習をする中で、私が実際に教師になって頑張りたいこと、理想とする教師像、生徒像、数学を通して生徒に教えたいことなどを考えるにあたって、段々と教師に近づいているという気持ちを味わうことができたと同時に、現時点での自分が目指す教育を明確にしたことでより教職に対する意識は強くなりました。

教員の世界には様々な「名人」がいます。「あの先生の授業は素晴らしい！わかりやすく、子どもたちが目を輝かせて参加している」という『授業名人』や「あの先生の学級は素晴らしい！生徒がみんな仲良く落ち着いていて、自分たちでいい集団を作ろうとしている」という『学級づくり名人』もいます。残念ながらその反対で、毎年「授業がつまらない」や「仲が悪くてまとまりがない」学級になってしまう教員もいます。それがその教員の力量と言ってしまえばそれまでなのですが、なぜこれほどまでに差がついてしまうのでしょうか？私は教師を目指す皆さんには、ぜひ「授業名人」や「学級づくり名人」になってほしいですし、皆さんもこの通信のタイトルである「名人」= GREAT TEACHER を目指してほしいと思っています。生徒指導は学級づくりの基本です。今回は『学級づくり名人』が必ず実践しているテクニックをご紹介します。教員になったらぜひ実践してください。

文科省が作成し、各学校に配布している「生徒指導提要」（生徒指導の解説書）には、生徒指導の目的が以下の様に定義されています。

生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と、社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と、社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

内容は網羅的で多岐に渡っていますが、ぎゅっと縮めてみると、「**主体性・社会性を身に付けさせて、生徒の可能性を伸ばせるように、支援しましょう**」であると考えられます。

では、学校生活のどの場面でこのような力が育成できるのかと言えば、最も効果的なのが「学級活動」です。当然担任の指導が直接生徒に反映しますし、担任の言葉掛け一つで大きく変わる部分です。

また生徒指導提要では、上記の「自己実現を支える」については、生徒指導を通して以下の項目の発達を支えるように示しています。

- ① 心理面（自信・自己肯定感）の発達
- ② 学習面（興味・関心・学習意欲等）の発達
- ③ 社会面（人間関係・集団適応等）の発達
- ④ 進路面（進路意識・将来展望等）の発達
- ⑤ 健康面（生活習慣・メンタルヘルス等）の発達

さらに生徒指導提要には、(以下引用) 生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が**自己指導能力**を身に付けることが重要です。児童生徒が、**深い自己理解**に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、**自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得すること**が目指されます。(引用終わり)と書かれているのです。

この生徒指導提要を読み込むと、つくづく「学校ってすごい役割を背負っているよな」と改めて実感します。

でもそんな生徒指導ができるかどうかは、学級の雰囲気次第です。生徒が落ち着きのない状態であったり、一部の生徒がわがまま勝手にふるまったりしている学級では、担任はやりたい指導ができないばかりか、一部の生徒の指導にかかりきりになり、全体への気配りや目配りが行き届かなくなり、いわゆる「荒れた」学級になってしまいます。

子どもたちが校内で最も長い時間を過ごし、自分を発達させていく現場が『学級』です。では生徒が皆仲良く落ち着いていて、お互いの個性を認め合い、高め合える『学級』の雰囲気を作り上げるためには、担任としてどのような取り組みをしていけばいいのでしょうか。以下にそのねらいと行動の流れを示します。

